

JOMF 派遣医師便り (2015. 3)

◆マニラ◆

沈黙の殺人者を追え！

マニラ日本人会診療所

菊地 宏久

頸動脈エコー検査を始めました（2015年3月より）。

突然死を引き起こす動脈硬化ですが、この病態の恐ろしいのは病気の進行に気付にくいということです。病態がかなり進行してから症状が発症し、突然に死を引き起こします。代表的な病気は心筋梗塞や脳血管疾患です。このようなことから動脈硬化は“沈黙の殺人者”と呼ばれています。

2014年日本の厚生労働省の統計では死因の第1位が悪性腫瘍、2位は「脳血管疾患と心疾患」で死因の約3分の1を占めています。

頸動脈エコーは、視覚的に動脈硬化の診断ができる検査です。動脈硬化の有無、血管壁の狭窄・閉塞、プラークの有無（血管壁限局性の隆起病変）、血流の評価などを調べます。検査方法は心エコーや腹部エコー、甲状腺エコー検査等と同様に仰向けに寝た状態で行います。被爆も痛みも無く安心して行える検査です。

頸動脈狭窄（頸動脈に動脈硬化が起こり血管が狭くなった状態）は虚血性心疾患や脳梗塞と優位な相関関係があることが分かっています。例えば無症候性頸動脈狭窄では、狭窄率70%以上のうち3割以上の患者さんは2年以内に死亡もしくは脳梗塞に至ると言われています。

心臓・脳血管疾患予防のためにはリスク因子である高血圧症、糖尿病、脂質異常症、喫煙習慣、肥満などの生活習慣病の管理が最も大切です。そして、これら動脈硬化危険因子を持つハイリスクの方は頸動脈エコー検査を受けて、適切な治療につなげていただきたいと思います。

皆さまお体を大切にしてください。